

学問題討議の際でも、our seventy seven countries はなどと、互い手を組んで、我々に訓練、教育及相互援助 (TEMA) の点で先進国はもっと手をさしのべろという。それで IOC に出て来た発展途上国の代表は、科学者 (こういう国にはいてもせいぜい水産の方の若干名だが) ではなく、外交官とか政府の首脳で科学に素人ばか

りなので、IOC とか WMO とかのように海洋とか気象の点を討議する基礎はやはり先進国ですすめる必要がある。こんな点で天気の話者のように、日本という先進国の若い人はそれぞれの分野で精進されることを望むものである。

### 〓〓〓 支部だより 〓〓〓

## 北海道支部研究発表会の報告

昭和50年度第2回支部研究発表会を下記のプログラムにより実施しましたので報告します。

日時：昭和51年3月15日(月)(10時00分～15時00分)

会場：北海道大学理学部 3号館(地球物理)401号室  
午前の部 座長 三宅賛(札幌)

1. 寒気の流出時の Cloud pattern と総観場について  
：足立俊三・孫野長治(北大 理学部)
2. AMTEX '75 の寒気の流出と Cloud pattern  
：足立俊三・孫野長治・播磨屋敏生(北大理)
3. 積雲の回転運動(Ⅱ)  
：穂積邦彦・孫野長治(北大 理学部)
4. 煙のゆらぎを風のスペクトルで表現するための簡単な仮定について：石崎健二(北大 工学部)
5. 1974年サロマ湖流氷災害時の気象について：  
山本 晃(札幌)

6. 電線着雪と低気圧ルートについて：  
斎藤邦彦(北電技研)

午後の部 座長 播磨屋敏生(北大理)

7. 凍結水滴の結晶主軸の方向性について  
(単結晶氷で凍結させた場合)：  
上田 博・菊地勝弘(北大 理学部)
8. 降雪に伴う大気中のイオン・エアロゾルの挙動について：織笠桂太郎(室蘭工大)
9. 融点氷の三叉粒界における水の流動：  
東海林明雄(北教育大釧路)
10. 大気オゾンの長期変動：関口理郎(札幌技)
11. 気象雑音と天気の関係について：  
浅利英吉(東海大 工学部)
12. 沿海州の地形の影響で発生する雲列による大雪：  
元木敏博・村松照男(札幌)